

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
発達と老化の理解Ⅱ Development and Aging Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
発達と老化の理解Ⅰ、こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ・Ⅲ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
こころとからだのしくみⅣ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
森 千佐子	福祉棟2F	月・水・金曜日 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
「発達と老化の理解Ⅱ」では、老年期における社会的機能の変化、老年期に多い症状や疾患について学習し、日常生活への影響および留意点について考える。また、高齢者の介護・援助を行うための基本的な知識を習得する。さらに、高齢者を介護する家族の支援や保健医療職との連携の必要性とその方法について学習する。				
授業の目標				
①老年期の社会的機能の変化について説明できるようにする。 ②老年期における社会参加の必要性および支援方法について説明できるようにする。 ③老年期における疾患の特徴が説明でき、老年期に多い症状や疾患を列挙できるようにする。 ④老年期にある人の生活上の留意点について、説明できるようにする。 ⑤高齢者を介護する家族の現状および支援の必要性について、説明できるようにする。				
授業の方法				
主に講義形式で授業を進めるが、疾患や症状の理解のために視聴覚教材を用いる。また、高齢者へのインタビューやグループディスカッションを通して、老年期にある人に対する理解を深め、介護・援助のあり方について考える授業とする。試験前には知識確認の問題を配布するので十分に活用し、学びを深めてほしい。				
学習の成果(学習成果)				
老年期における社会的機能の変化、老年期に多い症状や疾患に関する基礎知識をもとに、高齢者の自立とQOLを考えた支援を行うことができる。また、高齢者に対するインタビューやグループディスカッションを通して、老年期や高齢者の支援に関する自分の考えを述べるができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・受講時の留意点など) 老年期における社会的機能の変化と社会参加① 社会的機能の変化			
第2回目	老年期における社会的機能の変化と社会参加② 社会参加・社会活動、超高齢社会における今後の課題			
第3回目	老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点① 老年期における疾患の特徴と介護上の留意点 (小テストと答え合わせ・解説①)			
第4回目	老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点② 主な症状と生活上の留意点:痛み、しびれ、むくみ			
第5回目	老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点③ 主な症状と生活上の留意点:めまい、そう痒感、脱水症			
第6回目	老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点④ 主な疾患と生活上の留意点:心疾患、脳血管障害 (小テストと答え合わせ・解説②)			

第7回目	老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点⑤ 主な疾患と生活上の留意点：がん、糖尿病	
第8回目	老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点⑥ 主な疾患と生活上の留意点：骨・関節疾患（小テストと答え合わせ・解説③） 〈高齢者インタビューのレポートを提出〉	
第9回目	老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点⑦ 主な疾患と生活上の留意点：眼疾患、感染症	
第10回目	老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点⑧ 主な疾患と生活上の留意点：パーキンソン病、呼吸器疾患（小テストと答え合わせ・解説④）	
第11回目	老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点⑧ 主な疾患と生活上の留意点：老年期うつ病、認知症	
第12回目	高齢者と薬（小テストと答え合わせ・解説⑤）	
第13回目	要介護高齢者と家族の理解① 要介護高齢者の実態、要介護状態の予防	
第14回目	要介護高齢者と家族の理解② 高齢者を介護する家族の実態と支援（小テストと答え合わせ・解説⑥）	
第15回目	高齢者インタビューのまとめ【グループディスカッション】	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で評価する。教材を準備して授業に臨み、必要なことはノートにとり、わからないことは質問すること。また、グループディスカッションに積極的に参加し、他者の意見を十分に聴き、自分の意見を述べること。
レポート	20%	身近な高齢者にインタビューし、その方の生活歴や心身の状態、生活状況等についてまとめる。S評価のレポートは内容がわかりやすく、まとめ方が工夫され、インタビューを通しての感想や学びが具体的であること。
調査報告書		
小テスト	60%	3回目、6回目、8回目、10回目、12回目、14回目の授業で、それまでの学習内容に関する小テストを実施する。
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：新・介護福祉士養成講座 第11巻「発達と老化の理解」 中央法規出版（「発達と老化の理解Ⅰ」と同じ）		
履修上の留意点・ルール		
講義やグループディスカッションに積極的に参加し、学びを共有できるようにすること。机上に携帯電話、飲み物など教材以外のものを置くことは禁止する。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。		